

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	春雨の夜に : 短歌
Author(s)	鐵
Citation	龍南會雜誌, 167: 68-68
Issue date	1918-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6805
Right	

春雨の夜に

二、三、一

鐵

降りしきる春雨の夜にしみじみと古き文見て一人泣きする
ひたひたと身にせまり來る思出にふと振り返る吾と吾影
一日一日別るゝ日のみ近づきぬ又來る春を忘るよな君
南てふ一字を見てはわけもなく寂しくみやる大空の端
何故の心狂ひぞ女々しくも返らぬ人を戀しとぞ思ふ
何事ぞ餘り女々しと人は云ふされど寂しき一人身なれば

我を包める自然

一、二、甲二

長谷川 公一

葉脈の筋を通して朝の日はしづもり入りぬ森のつめたさ、
（以下六首龍田山にて）
濕りたる朝の空氣に呼吸をする杉の林のうす寒さかな、
水深き大海原の底にある都にも似て市は眠れり、
杉林青き女松に朝風はさわさわ鳴れり水の如くに、
阿蘇の山豊後の峯に檜のごと白雲走り日は照り返る、